九州大学 KYUSHU UNIVERSITY × NEXCO 西日本

第18回 技術シンポジウム

デジタル時代における インフラの高度化

～技術が描く安全・安心、地域と社会の持続可能な未来を見据えて～

令和8年
11月9日

参加費 **無料**

13:30－17:30
開場時間 13:00

会場 アクロス福岡 B2F イベントホール
（福岡市中央区天神1-1-1）

プログラム

※順番・講演時間については、講演者との調整により変更する場合があります

13:30～13:35 **開会挨拶**

13:35～14:15 **講演1** **『自然災害の被害を予見するためのデジタルツインの開発構想』**
浅井 光輝（九州大学大学院 工学研究院 附属アジア防災研究センター 教授）

14:15～14:55 **講演2** **『九州地方整備局のインフラ分野のDX推進』**
房前 和朋（国土交通省　九州地方整備局 企画部 建設情報・施工高度化技術調整官（インフラDX推進室長））

15:10～15:45 **講演3** **『デジタル技術を活用した防災・減災に関する技術開発の取り組み』**
櫻庭 雅明（日本工営株式会社 執行役員 中央研究所長）

15:45～16:20 **講演4** **『通信インフラを支える監視高度化の歩みとAI活用』**
水野 宏昭（KDDI株式会社 コア技術統括本部 オペレーション本部 クラウドエンジニアリング部データエンジニアリンググループ グループリーダー）

16:35～17:10 **講演5** **『NEW ACE DXsが目指す高速道路マネジメントの進化』**
伊藤 一弘（西日本高速道路株式会社　保全サービス事業本部　保全サービス事業部　DX担当課長）

17:10～17:25 **学生アイデア発表**
道路工学実践教室 最優秀班

17:25～17:30 **閉会挨拶**

開催方法

会場開催のみとなります。

会場開催

HPの「シンポジウム参加申し込み」からお申し込みください。

※事前申し込みのない方の日参加はお断りいたします。
※土木学会認定CPDプログラム（認定番号 JSCE26-1181）
※ペーパーレス化のため、講演資料の配布は行いません。
事前にホームページからダウンロードいただくか、当日ご案内するQRコードよりご確認ください。

申込み先

※その他注意事項も併せてご確認ください。
https://www.kyushu-u-nexco.jp/index.html
申し込み締め切り 10月30日（金）

主催：九州大学　共催：西日本高速道路株式会社
後援：国土交通省九州地方整備局、（公社）土木学会西部支部、（公社）地盤工学会九州支部
（一社）九州橋梁・構造工学研究会、（一社）建設コンサルタンツ協会九州支部
（一社）日本建設業連合会九州支部、（一社）九州地域づくり協会
お問合せ先：西日本高速道路エンジニアリング九州株式会社 企画課
kikaku@w-e-kyushu.co.jp

第18回技術シンポジウム

デジタル時代におけるインフラの高度化

～技術が描く安全・安心、地域と社会の持続可能な未来を見据えて～

近年、AIやデータ活用技術の急速な進展により、インフラには、社会や人々の暮らしの安全・安心を支える役割に加え、社会環境の変化に柔軟に対応し、新たな価値を創出する基盤としての役割が求められており、その重要性はますます高まっています。現在、インフラ分野では、技術者不足の深刻化、自然災害の頻発化・激甚化への対応、高度経済成長期に整備された社会基盤の老朽化対策など、さまざまな課題に直面しています。こうした課題の克服と新たな価値の創出、そして持続可能な社会の実現には、デジタル技術を活用したインフラDXの推進が不可欠です。

本シンポジウムでは、「デジタル時代におけるインフラの高度化 ～技術が描く安全・安心、地域と社会の持続可能な未来を見据えて～」をテーマに、産・学・官の第一線で活躍する専門家を招き、最新技術の動向や先進的な実装事例、現場が抱える課題とその解決に向けた取り組みをご紹介いただきます。

本シンポジウムを通じて、デジタル技術が切り拓くインフラの新たな可能性について多角的に捉えるとともに、これからの社会基盤のあり方や、技術者に求められる役割について考える機会となることを期待しています。

講演者略歴

浅井 光輝（あさい みつてる）　九州大学大学院 工学研究院 附属アジア防災研究センター 教授

九州大学大学院工学研究院附属アジア防災研究センター教授。博士（工学）。専門は計算力学、防災工学、数値シミュレーションおよびデータサイエンス。自然災害を対象とした高精度な予測技術の開発や、人工知能と物理シミュレーションを融合した次世代の防災・減災技術の研究に取り組んでいる。これまでに国内外の学術誌に多数の論文を発表するとともに、国際共同研究や大型研究プロジェクトを推進している。2027年には数値流体力学に関する国際会議 CFC2027のGeneral Chairを務める予定であり、計算科学・工学分野の国際連携や学術交流にも積極的に取り組んでいる。また、計算力学分野における教育・人材育成にも力を注ぎ、次世代研究者の育成にも貢献している。

房前 和朋（ふさまえ かずとも）　国土交通省 九州地方整備局 企画部 建設情報・施工高度化技術調整官（インフラDX推進室長）

1992年に建設省九州地方建設局（現 国土交通省九州地方整備局）へ入省。河川・防災分野を中心に、情報通信技術を活用した防災情報システムの企画・開発に従事。2012年度には、「地上デジタル放送を活用した河川防災情報提供システム」の開発により、文部科学大臣表彰（科学技術賞・開発部門）を受賞。その後、インフラ分野におけるDX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進や、3D、メタバース、AI等の先端技術を活用した災害対応・防災分野の研究開発に携わる。主な経歴として、2019年度に九州地方整備局災害対策マネジメント室課長補佐、2021年度に同局企画部インフラDX推進室建設専門官を歴任。2024年度より国立研究開発法人土木研究所つくば中央研究所技術推進本部主任研究員を務め、2026年度より現職。

櫻庭 雅明（さくらば まさあき）　日本工営株式会社 執行役員 中央研究所長

日本工営株式会社執行役員・中央研究所所長。1994年の入社以来、防災・減災分野の研究開発に従事。中央研究所防災水理グループ課長、先端研究開発センター長、事業戦略本部デジタルイノベーション部長・統括部長、中央研究所副所長を歴任し、2025年より現職。デジタル技術を活用した防災・減災の高度化を専門とし、デジタルツインやシミュレーション技術を活用した災害リスク評価、地震発生前後の都市被害予測、発災直後の緊急支援・応急復旧支援技術の研究開発を推進している。また、災害からの復旧過程や社会・都市のレジリエンスを定量的に評価する手法の開発にも取り組み、研究成果の社会実装を通じて、持続的かつ強靱な社会の実現に取り組んでいる。

水野 宏昭（みずの ひろあき）　KDDI株式会社 コア技術統括本部 オペレーション本部 クラウドエンジニアリング部データエンジニアリンググループ グループリーダー

2003年、KDDI株式会社入社。au事業本部au技術本部 移動体ネットワーク技術部にてショートメッセージサービスなどを扱うサービスノードの開発業務に従事。待ちうたシステム、法人向けの通信モジュール呼び起こしシステム、無線での移動機初期設定システムを担当。2008年、運用統括本部 設備運用本部 FMBCオペレーションセンター サーバオペレーションセンターに異動し、主にサーバ系設備の保守運用業務に従事。統計情報を用いてサービス提供状態を監視する機能を内製構築。
2024年より生成AIを用いた大規模障害の原因切り分けシステムの開発に取り組み、現在に至る。

伊藤 一弘（いとう かずひろ）　西日本高速道路株式会社 保全サービス事業本部 保全サービス事業部 DX担当課長

西日本高速道路株式会社 保全サービス事業部 DX担当課長。1995年に日本道路公団へ入社し、2005年の民営化に伴い西日本高速道路株式会社へ移行。2011年にグループ会社へ出向し、新事業開発や製品開発に携わる。2013年以降は本社および四国支社において、特定更新事業や耐震補強などの業務に携わる。2022年から中国支社広島高速道路事務所副所長、2025年から関西支社新名神大阪西事務所副所長として、主に工事の安全対策に携わる。2026年7月より現職。現在は高速道路保全事業におけるDXの実装・拡大を推進している。